

Proud!  
Japan

東日本大震災の復興を支援しよう

祭りの魂は次の世代へ――



広報のと  
第80号

平成23年10月1日発行

■発行・能登町 ■編集・広報情報推進課  
〒927-0492  
石川県鳳珠郡能登町字出津新1字1-97番地1

☎0768-6211000(他)  
能登町URL: <http://www.town.noto.lg.jp>  
Eメール: [info@town.noto.lg.jp](mailto:info@town.noto.lg.jp)

「行政」「人」「地域の魅力・価値」を「プラス」でつなぐ情報誌

広報のとNo. 80  
2011.10.1

Noto PLUS

10

第10回 栗ごはん

写真・文 中乃波木



のと  
ふうど

◎はぎが撮る母、  
となみさんの料理と家族のおはなし

栗ごはんの材料

栗  
米十もち米(半々の割合で)  
みりん(炊く時に少々入れる)  
黒ごま・塩



秋生まれの私は、芋、栗、南瓜が大好きです。生まれた月の旬のものを好むのには、やはり何か因果関係があるのではないだろうかと考えてみたところ、どうやら思い浮かんだのは、誕生日に作ってもらう料理やケーキに関係しているのではないかと思いつきました。栗ごはんは南瓜の煮物、スイートポテトにモンブラン、南瓜のグラタン。一堂に食卓に並んだことはないといえど、私の10月の誕生日祝い日にはこの中のどれかは登場してきたように思います。

「おめでとう!」と言われて食べる食事やお菓子は、幼い子どもにとっては、とても特別な思い出の一部になっていたりします。誕生日会の写真の中にも写っていたり、とても嬉しい気持ちで食べていたり、友達と笑って食べていたり、楽しい記憶の中に絡んでいる食事はそれだけで美味しいのです。

小学校の頃には友達を呼んで誕生日会をしていた我が家では、いつも母・十七波さんが御馳走とケーキを作ってくれました。友達との誕生日会に行く時にまでケーキを焼いてくれたくらい「お菓子まで手作り」をモットーにしていた十七波さんの子育ては、高級珍味以外は好き嫌いが無いという、食べるのが大好きな私をつくりました。高級珍味とは、フォアグラ、キャビア、フカヒレ等に使われる、普段の食卓にはなかなか並ばない食材、そして我が家では外食でも食べたことのない食材のことです。好き嫌いはないと自負していた私が、何かの機会にそれらを食べる幸運にあやかるところ、珍しく「私は好きではない」と舌が判断したのでした。

誕生日に食べたくなるのは、やっぱり高級フレンチでもお寿司でもなく、栗ごはんは南瓜の煮物、デザートにスイートポテトまたは栗の渋皮煮なんかあったら最高だなーと想像だけで顔がにやける、芋栗南瓜娘をもった十七波さんはきつと、今年の秋も沢山の栗をむいて、おいしい栗ごはんを炊いてくれることでしょう。



中乃波木 (なかのはぎ)  
昭和54年、東京生まれ。13歳の時に母親と共に旧柳田村へ越し、中学の二年半を過ごす。その時の感動が忘れられず、東京造形大学写真学科へ入学後から能登の写真集を撮り始めて、卒業後は広告制作会社の写真部を経て独立。能登を撮りだして10年目の平成19年12月に初の写真集「Noto」を出版(FOIL刊)。現在は能登で暮らしたころのエッセー「大波小波」を季刊誌「能登」で掲載するなど活動の幅を広げている。母、十七波(となみ)さんは陶芸家として能登町柳田で陶房眠兎(とうぼうみんと)を構え、19年目となる。